

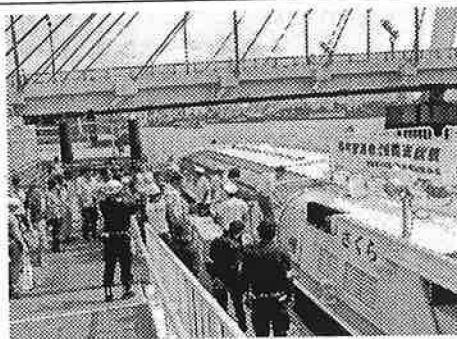
平成 22 年 9 月 7 日 (火)

水上バスでの 帰宅体験など

大豊建設、中央区の
総合防災訓練に協力

大豊建設は5日、東京都中央区が主催した総合防災訓練に協力した。同社の本社・東京支店から30人の社員が自主的に訓練に参加。多数の民間企業の参画も得た本格的な訓練の中で、NTTドコモが提供する災害用伝言板の使い方や自動体外式除細動器(AED)を用いた応急措置、また、陸上交通が寸断された時の水上交通の利用方法などを体験した。写真。

訓練には、地元各町会



や教育機関、警察、消防、自衛隊、医師会のほか、中央区所在の企業などが参加した。

会場となった新川ツインビルで同社社員たちは、実際に災害が発生した時の安否確認や応急手当の訓練を実施。続いて、隅田川の防災船着き場から東京都公園協会が運営する水上バスに乗り

込み、交通手段が寸断され帰宅困難となった場合の対処方法などを学んだ。

災害対策本部長として参加した中央区の矢田美英区長は「6年前、東京にマグニチュード7クラスの大地震が30年以内に発生する確率が70%と予測が出された。その時から考えれば、現時点で発生する確率はさらに高まっているといえる。区民の皆さんには、自らを守るという気持ちとあわせて、助け合いの精神を持ってもらいたい。区としても、地震に強いまちづくりをさらに推し進めていく」と述べた。

同社は、地元の新川一丁目東町会(押田まり子会長)と災害時の援助協定を結び、地域住民に対して応急給水を提供することにしている。今回の防災訓練への参加も、地元企業として地域に貢献しているという趣旨から社内参加者を募った。また、現在事業継続計画(BCP)策定の詰め作業を行っているところで、「今回の訓練を通じて得たことを、実践的なBCPを展開するのにも役立てていきたい」(総務部)としている。